

(様式1)

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>利用者を受容するケア・利用者のニーズを探り実現に向けたケア・事故のない安全な生活・職員間による日常業務の推進</p> <p>○</p>	左記の中で、最も力を入れて取り組んでいるのが、利用者を受容するケアと、ニーズを探り、実現に向けたケア
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>以前は、申し送り時などに、理念の復唱などを職員全員でしていたが、管理者及び職員の人事異動や退職などにより、少しずつなくなっていった。</p> <p>○</p>	申し送り時に、再び、理念の復唱を復活させ、理念を共有し、実践に向け取り組んでいきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>現在のところ、取り組めていない</p> <p>○</p>	今後、玄関などに明示し、家族や地域の方に浸透していく様、進めていく。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近所のスーパーへの買い物や、散歩の際などに、こちら側からの積極的な挨拶に努めている。</p> <p>○</p>	ホーム便りなど作成し、ご近所などにも配布し、気軽に立ち寄れる環境を作りをしていく。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>ホームでの、年2回の大きな行事に、自治会長・老人会などを招待し、交流している。また、こちら側からも、小・中学校の運動会や、納涼祭などに参加し、交流している。</p> <p>○</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	年2回の大きな行事の取り組み。(バーベキュー大会・芋煮会)		
<b>3. 理念を实践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今までは、管理者・計画作成担当者だけが中心となり、外部評価及び自己評価を、進めていってしまっていた。	○	今後は、管理者・計画作成担当者だけでなく、職員全員で、外部評価の意義を理解し、評価を活かして、具体的な改善に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、会議を設け、利用者様の動向・活動状況などの報告をし、話し合いを進めている。	○	市の職員・自治会長・家族代表から、その都度要望、指摘事項など有った場合、必ず職員全員に報告し、サービス向上に繋げていく。
9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在のところ、運営推進会議での関わりしかない。	○	今後、ホームでのイベント事などにもお誘いしていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	出来ていない。	○	学ぶ機会を設け、必要としている方に、活用できる様にしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会などは、まだ持っていない。	○	今後、虐待防止関連法などについて、会議などを設け、職員全員で学んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明日を設けて行っている。その後、契約を結んでいる。		
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員との密な関係を持っており、直接意見を聞くことが出来ている。		
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には、出来る限り報告を行っているが、全員、そして定期的には行えていない。	○	今後は定期的に報告出来る機会を設けたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行えていない。	○	家族との交流を持つ機会からスタートする。
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見は言えるが、反映されているかと言えば、そうでもないと思う。	○	もっと現場の意見が、運営に反映される様に上層部へ働きかける。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日中帯は、職員が確保出来ている為 行えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	定期的に他部署への異動がある。	○	必要最小限に抑えられる様、運営者に働きかけている。
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	資格取得に向けての情報や、研修の機会を提供している。	○	特定の職員に片寄る事なく、どの職員もが研修を受けられる様、機会を与えている。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	実施していない。	○	運営者に働きかけていく。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	暑気払いや忘年会・社員旅行を行い、法人内の職員の交流や、ストレス発散の機会を設けている。	○	部署内でも定期的に、職員の親睦会を行いたい。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	個々の意見を取り入れる事により、各自が向上心を持って働けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	常に声掛けをし、何を言いたいのか、求めているかを察知し、受け止める努力をしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族も同様に、相談されたり、困っていることを気に掛け、よく話を聞く場を作り、受け止める努力をしている。		
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所受付・相談時に、細かくアセスメントをしている。また、こちら側の計画作成担当者だけの判断ではなく、入所判定会議を設け、必要としている支援を見極めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	情報面接の際に、必ず御本人の承諾を頂いてから、次の段階に進む様に努めている。また、2日間 体験利用をして頂き、本人が場所に合っているかどうかを見極めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に周囲を散歩したり、庭や畑を歩くなどして、季節の話などを教えられたりし、共感しあうようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年に何度か季節ごとに催し物があり、そこでの交流や面会に来られた時は、職員も自然に同席し会話を交わしお茶を飲んだりしている。家族の一日旅行などに、職員が同伴したりもしている。	○	家族が同意してくれれば、帰省・日帰りの外出などに同行し、グループホーム外での利用者の様子を知り、さらにその方を理解したいと思う。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時など利用者の昔の生活や、御家族の構成、また御家族との過去の関係と、現在の関係の把握につとめている。	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々デイサービスなどから、昔一緒に通っていた方が、面会に来られる程度で、積極的に支援していない。	○	昔住んでおられた場所や、思い出の場所などに連れて行き、懐かしい人との交流を持たせてあげたい。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりの方の性格を把握し、目的が同じ利用者同士に声を掛け、一緒に楽しめるように支援している。また孤立している利用者に対し、無理のない程度にお誘いしている。	○	
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	こちらからは、特別な用件がなければ、連絡を取ることはないが、家族などから連絡があれば応じている。	○	以前利用されていた方が、時には訪問される様な、暖かな関係を継続できたら良い。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		
34	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○	入所後など、新たに得た情報を、他職員が把握しやすい様にまとめていきたい。
35	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	○	他ユニットや新人の職員が、入居者の状態を把握しやすい様に、現在、ケアマニュアルを作成中。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	御本人の日々の様子や訴えなどを聞き、全職員で情報収集している。御家族、医療機関などからのお話も含め、課題や支援について担当者がまとめ、検討し、そこから介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院した場合、入院中の様子、医療機関などからの情報を元にして、御家族の希望も踏まえ、退院後の支援を検討し、作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌と連絡事項を用いて、スタッフ間で情報を共有している。そこからの情報で介護計画に反映させている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	基本的には通院などは、御家族様が付き添う様になっているが、家族の状況によっては、通院支援・付き添いなどをおこなっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	実施出来ていない。	○	今後、他機関と協力しながら、さまざまな角度から支援していける様にしたい。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は実施出来ていない。	○	今後、出張リハビリサービスを受けるご利用者の予定がある。その様なサービスの利用が浸透する様に働きかけていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	同敷地内に地域包括支援センターはあるが、左記の様な内容までは行えていない。	○	今後は、本人の意向や必要性に応じて、地域包括支援センターと、深く協働していきたい。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に検診をして下さっている病院にかかる際は、施設の職員が診察に連れていかれる様になっている。(家族に連絡し、無理な場合)		
44	○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医はいるが、認知症についてはあまり詳しくはありません。	○	運営者に相談し、良い案を出していく。
45	○看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同じ敷地内にあるデイサービスの看護師が、日々利用者様の体調について様子を伺うための巡回をして下さっています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中・入院後、医療機関・家族に連絡し、入院状況などの把握に努めています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の利用者様についての支援については、対応を行っておりますが、終末期に向けてはまだ、システムが整っていない。	○	システムが整い次第取組んでいきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化の利用者様についての支援については、対応を行っておりますが、終末期についての支援などは、これからの課題として話し合っているところである。	○	システムが整い次第取組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所する前に本人・家族と面接をし、情報を得ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各居室、ご利用者さまが自分の意思で施錠が可能である。居室への入室時必ず本人の同意をえてから。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	声掛けにて本人の希望を聞き、納得しながら暮らせるように支援している		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を尊重し、出来るだけ本人の希望に添った日常の生活・外出が出来るよう、支援している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節に合った物を自前に用意しておき、好みの物を着用して頂く。理容・美容は希望により出張して頂いたり、こちらから出向いたりしている。出来るだけ、馴染みの関係維持に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物を取り入れたり、利用者様の希望を聞き、その希望の物をメニューの一品として、提供したりもしている。その他、部分的ではあるが、食器拭き・テーブル拭きなど、職員と一緒に実施している。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望により、お酒・タバコ・飲み物・おやつ等、健康に注意しながら、毎日楽しめるよう実施している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄定着されない方、尿意のない方等、チェック表をつけ、見守り。また、一人ひとりに合わせた排泄パターンで、気持ちよく排泄出来るよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせ、入浴を楽しめるように支援している。また、夜間も希望があれば、入浴出来るようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	和室なども、安眠できる場所として、活用して頂いている。状況に応じて、自由に安心して気持ちいい空間が取れるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節の外出、小イベントなどを、取り入れている。その他、一人ひとりの生活歴を下に、役割・楽しみ・気晴らしの支援をしている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫にてお金を預かり、買い物へいく際に、金庫の中からお金を出して、買い物へいつている。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の数が足りている時は、散歩へと付き添ったり、利用者様の買い物に、御一緒させて頂いている。	○	もっと個別に思い出の場所や、好きな場所へ行けるようにしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者様の昔の家など、個別的な外出も時々しているが、回数的には少ない。	○	個別的な外出も、増やしていきたい。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分の居室に電話機がある方は、ご自分の居室で電話されている。また、電話がない方も、希望があれば、かけて頂いている。	○	御家族の方との電話でのつながりも、もっと増やしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	よく来て下さる家族もいるがほとんど会いに来ない御家族もいる。	○	利用者の方と家族、友人の方が会える機会（イベント事など）を、もっと考えていき、続けていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んではいるが、左記の基準における禁止の対象となる具体的な行為を、正しく理解したうえでの取り組みは、まだ出ていない。	○	今後、虐待についての勉強会を、職員全員で実施していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、死角になっている部分以外は、全ての鍵を開放している。その為、利用者様も、布団を干したり、居室の掃除を自由にされている。		
67	○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人の負担にならない程度に、常時、声かけと目配りを行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	衛生・リスクマネジメント委員会の会議が、月一回行われており、委員の指導の下で、保管・管理をしている。		
69	○事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	あまり取り組めていない。	○	マニュアルなどを下に、もう少し全体の意識を高め、訓練していきたい。
70	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	あまり行えていない。	○	マニュアルなどを下に、もう少し全体の意識を高め、訓練していきたい。
71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者様が避難出来る方法は、身についているが、地域の人々の協力を得られるかどうかは定かである。	○	運営推進会議などを利用し、もっと働きかけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	介護計画書、説明時などに、起こり得るリスクについて、説明している。その後、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を、家族・職員ではなしあっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	夜勤者から、翌日の夜間帯の申し送り、その後、午前・午後に申し送りをし、情報を共有して、対応に結び付けている。		
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的、用法や用量についての理解に、まだバラつきがある。	○	今後、会議などで、カンファレンスしていく。
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取はもちろんのこと、現在では、作業療法士にも来て頂き、体操なども取り入れ、便秘の予防につなげている。	○	OTからアドバイスなど頂き、職員でも出来るようにするなどして、回数を増やしたい。
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、自立の方には、声かけ・見守り。介助必要な方には全介助ではなく、声かけしながら、部分解除		
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスは、キッチン栄養士と連携しながらすすめている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防マニュアルを下に、実行している。		
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具使用后、専用の消毒で予防している。賞味期限切れの物の廃棄の徹底。冷凍庫での長期保存はしないなどして、食中毒予防に努めている。		
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者様にとっては、中庭があり、散歩などもしやすく安全なので良いが、他から来られる方には、解かりづらい玄関である。	○	運営者に働きかけていく。
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室・パーテーションなど活用し、居心地よく過ごせる工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	両ユニットとも、食事スペースとは別のホールにソファを置き、利用者様が自由に座って話したり、ウトウトできるスペースがある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使用していた、家財道具を持ってきて頂き、使用されている。		
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	まどを開け、こまめに空気を入れかえ、換気している。空調も、一人ひとりの利用者に合わせ、こまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子や、シルバーカーでも通りやすい様に、ホールが直線になっている。利用者がホール内で、歩き疲れた時など休める様に、ベランダなどにも、長椅子などが配置してある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の居室が理解しづらい方の居室は、本人の名前を大きく書いた、表札を三ヵ所にだしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに長椅子を置き、利用者がお茶を飲んだり、のんびり外を眺めたり出来るようにしている。中庭に、花壇やプランターを置き、色鮮やかな草花を育てている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 2 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 とんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 1 大いに増えている <input type="radio"/> 2 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3 あまり増えていない <input type="radio"/> 4 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

本人のペースを大切に生活作り。植物との関わりや、動物との関わりを通して、本人の生活意欲の向上。